

融資の裏付けに「ぎょさい」活用を

～不振のノリ養殖にみる災害対策のあり方～

冬の風物詩である「ノリ養殖」も生産の大詰めを迎えております。

東高西低といえる今漁期の生産状況の中でも特に有明地区の不振はこれまでになく深刻なものとなっています。その原因は、昨年12月上旬から続いた植物性プランクトン(珪藻類)の大量発生に起因するノリの色落ちで、有明地区のノリ養殖がこれほど大きなダメージを受けるといえるのは、今まで例を見なかったことです。

今年度のノリ特定養殖共済の加入実績は、厳しい漁業情勢を受けて残念ながら前年度を下回りましたが、こうした情勢下で契約を継続した漁協では、今あらためて「ぎょさい」加入の重要性を実感されていることと思われます。

今回の災害で大幅な生産減となっている有明海のある漁協での「ぎょさい」有効活用の事例について紹介します。「ぎょさい」を高度利用しているこの漁協では、漁期終了後の共済金の支払を見込み、1月下旬の制度資金返済に充てるため組合員に1億円の緊急融資を実施し、さらに3月末の仕込み資金返済に対応するため数億円の追加融資を行う予定と聞いております。

思わぬ災害に見舞われたときであっても、漁協が「ぎょさい」加入を活用して迅速に対策を講じた好例であるといえます。

今回の大災害を通じわれわれがこれまで以上に漁協や漁業者の皆様にご伝えていかなければならないと痛感しているのは、ぎょさいに加入していれば「ぎょさい」が融資の裏付けとなり不漁や災害の際に返済の心配もなく安心して融資を受けられるということです。

最後に、有明地区の状況好転と、全国の漁業者の皆様の好漁を心から祈願いたします。



【上段】この度の有明海で発生したのりの色落ち



【下段】それを製品にしてみたもの